

教師への第一歩

宇大附属小での教育実習



今回の会報は、「教育実習」を特集しました。

- 学生は「教師への第一歩」
- 現場の先生方は「初心に戻る」
- 退職された方々は「思い出を新たにするよりどころ」として、いただけたら幸いです。

9月のこの時期、宇大の学生は、附属小学校・附属中学校・附属特別支援学校に教育実習で大変お世話になっています。

写真の学生は、1年生の担当になった横田千絵さん。国語「かんじをつかってかきましょう」の授業風景です。

本気で望めば必ず返ってくる。これが、教育実習で学び得たことです。3週間、毎日試行錯誤を繰り返しながら全力で子どもたちと関わりました。子どもたちの真剣に学ぶ姿や「できた」という笑顔は、何物にも代え難いものでした。この学びを糧に、子どもに全力で応える教師を目指し、これからも努力を続けます。

国語専攻 辻 理緒

子どもたちの笑顔、元気の良さがとても印象強く残っています。大変だと感じたときに、何度も子どもたちが支えとなりました。毎日様々な発見があって楽しさが尽きない、そんな充実した3週間でした。実習での経験は将来必ず生きてきます。今後も教師の夢を追い続け、子どもと共に成長していける教師を目指します。

数学専攻 鈴木 広大

目次

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ	2	学生生活を振り返って	7
同窓会から学生への支援	3	今に生きる	8・9
心に残る先生や先輩	4	定期総会概況報告	10・11
懐かしい学生の頃	5	同窓会について・同窓会事務局から	12
現場からの声	6	編集後記	12

同窓会会長と教育学部長からのメッセージ



ご挨拶

宇都宮大学教育学部同窓会会長
松本展壽

昨年度会長をおおせつかって、1年がたちました。役員の皆様方、事務局職員の方々のご協力により、何とか1年間やってくることが出来ました。感謝申し上げます。

7月3日に宇都宮大学教育学部長伊東明彦様をはじめ沢山の来賓の方々の御臨席をいただき、第127回の総会が開催されました。県内各地から沢山の会員の皆様方に御参加いただき、無事終了することが出来ました。大変ありがとうございました。

今年度は、春の叙勲で2名の方が、高齢者叙勲で12名の方が受賞されました。誠にめでたかったです。また、昨年度まで役員として活躍して下さった20名の皆様が退任されました。同窓会の発展のため御活躍いただき大変ありがとうございました。今後とも同窓会のために御協力いただければ幸いです。

講話では、伊東教育学部長様に、「宇都宮大学教育学部の最近の動向について」という演題でわかりやすくお話いただき、大学の教育学部の現状がわかり、ありがとうございました。

さて、今年度は2年に一度おこなわれてきた、ホームカミングデーが行われる年です。同窓会としましては前回までと同様に、参加くださる皆様に楽しんでいただけるよう考えていきたいと思っておりますので、沢山の会員の方々のご参加をお待ちしております。



ご挨拶

宇都宮大学教育学部学部長
伊東明彦

教育学部長の伊東でございます。教育学部同窓会の皆様には日ごろから大変お世話になっております。同窓会の様々なサポートにまずは厚く御礼申し上げます。

昨年度は悲願の7号館（旧音楽棟）の改修がやっと完成いたしました。新しい7号館には、音楽棟としての機能に加えて、教職センターとラーニングコモンズが設置され、新しい教育学部の顔となっています。改修に際しては、同窓会からも多額のご援助をいただき、大変ありがとうございました。機会がございましたら是非一度お立ち寄りください。

教育学部では、今年度から総合人間形成課程の募集を中止し、学校教育教員養成課程に一本化しました。1990年（平成2年）に総合教育課程を設置して以来26年ぶりに教員養成に特化した学部に戻ったということです。しかし、当時の学部学生定員が310名だったのに対し、現在の学生定員は170名とその規模はほぼ半減しております。昨年4月の教職大学院の設置に続く大きな変化であります。国立大学全体が大きな変革を迫られている中で、本教育学部は更なる改革を続けていく使命を負っているともいえます。

今後更なる変革が必要となる厳しい情勢が続くことも予想されますが、教育学部はこれからも地域の教育界に望まれる人材の育成にさらに励んでいく所存です。今後とも皆様方の絶大なるご支援を願い申し上げます。



教育学部を歩く／美術教育専攻 吉永 健留

同窓会から学生への支援

教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援



役に立てる喜び

就職セミナー指導員 影山 房 與

自分が大学卒業時は栃木県の教員採用試験が大量不採用の年でした。地元には残らない友人もいました。

現在の教員採用はさらに難しくなっています。その採用試験の一助にと同窓会が関わるようになったのは素晴らしいです。40年近い教員生活で培ったものを少しでも伝えられたら嬉しいと思いました。

千字程度の文章から伝わってくる考えや思い。書き慣れていない人もいれば、まとめられた文章を書く人もいます。具体的に書くことがいかに難しいことか。体験や経験の量や質によっても違ってきます。面接による論作文指導では、face to faceのせいか熱い思いが伝わってきます。行間に表れた思いや考えを掘り下げることで文章の内容が深まります。短時間ではありますが、若い大学生とふれあうことで大きな学びや喜びを味わうことができます。お役に立てて嬉しいです。

是非とも教師に!!

就職支援室指導員 山口 史 子

7月に入り各県の教員採用試験が始まりました。その対策のため、笑顔の中にも不安をのぞかせながら入室する学生たち。ここは就職支援室。教師を目指す人を応援する所です。真剣に一生懸命取り組むその姿に、徳永幸子先生と共に“是非とも教師に!”と支援にも力が入ります。ここには、採用試験の過去問題集、対策に関する参考書や教育雑誌等がそろっていて、自由に活用できます。先輩たちが後輩にと残してくれた採用試験に関する様々な情報ファイルもあります。今年も新しい情報が加えられることでしょう。模擬集団面接等にもたくさんの人が参加しています。



ラーニングcommonsにて/美術教育専攻 吉田 優希

6月、隣室が「教採セミナースタジオ (セミスタ)」として開放されました。教採対策の学習室として有効活用できるよう、環境整備に努めていきます。

是非とも教師に!! 就職支援室は、教師を目指す人を、いつでも、どんなことでも、心から、応援します。



迷いに向き合ってくれた支援室

学校教育専攻卒 増山 歩

「教師に向いていないのではないかな?」教育実習を終えた時、迷いで心がいっぱいになりました。しかし、教師になるという夢を諦められず、救いを求めて就職支援室に入室しました。

「あなたは一人ひとりに丁寧に向き合っているから特別支援学級の先生に絶対向いている。」そう支援室の先生に言われなければ今の私はありません。

教員採用試験に向けて、支援室の先生方や同窓会の先生方が丁寧に指導してくださいました。試験勉強に付き合っただけだけでなく、授業や学級経営に関する御教示をいただくこともありました。そして、何度も励ましの言葉をかけていただきました。

未だに迷いを払拭することはできません。しかし、子どもたちの笑顔を見る度に素晴らしい職に導いてもらえたことを実感する日々を送っています。



支えてくれた支援室

社会科教育専攻卒 青 砥 匠

現在、私は小学校教員として勤務しています。小学生からの夢を叶え、今の私があることは、就職支援室の先生方のおかげだと思っています。

試験対策にあたって何を勉強すれば良いか分からない事を支援室の先生に相談すると、「皆同じ気持ちですよ。まずはこれなんてどうかな。」と、具体的なアドバイスを頂きました。単なる試験対策の助言だけでなく、精神的にも安心と自信を与えてくれる場であり、本当に大きな支えとなりました。

教員となって数カ月が経ちました。毎日分からないことばかりで、失敗してしまうことも多くあります。それでも、子どもたちの笑顔と、支援室で共に切磋琢磨し、助け合ってきた仲間、職場の先生方に支えられながら日々奮闘しています。支援室で学んだことを生かし、一日一日を大切にしていきたいと思っています。

心に残る先生や先輩



大切な恩師に感謝！

石橋支部 石田 洋江

教職の道に就き30年が経ちました。振り返れば、やはり教師の自分も、多くの恩師との出会いと教えが、人生の糧であり大きな財産となっていることを改めて感じています。

教師を志すきっかけを与えてくださった、中学の時の大好きな担任の先生。大学で表現する楽しさを教えてくださった担任の先生。卒論で最後まで懇切丁寧にご指導してくださった先生。就職後、子育てで忙しかった時期にいつも話を聞いてくださった同僚の先生。内留をすすめてくださり、向上心をもって、生涯学び続けることの大切さを説いてくださった憧れの校長先生。そして、今、お世話になっている校長先生はじめ同僚の先生方。幸運にもこのようなすばらしい先生方に出会い、多くのご教示をいただけたことに心から感謝申し上げます。自分もこのような先生方に少しでも近づけるよう、今後も学び続けます。

教育行政職として勤務する機会もいただきましたが、その折、研修会を開催するにあたり、とある大学のホールをお借りできないか依頼するため、学事録を開きました。

目に飛び込んできたのは、とても懐かしい先生のお名前でした。学生時代にとってもお世話になった太田周教授でした。

早速、大学を訪れることにしましたが、卒業してから約30年。憶えていただけているか、一抹の不安も正直なところありました。しかし、久しぶりにお会いした太田先生は、満面の笑みで迎えてくださいました。

30年経ってもなお、教え子のことを心に留めておいてくださった太田先生に感謝するとともに、私自身もそうありたいと強く思った瞬間でした。



とある午後／美術教育専攻 柴崎 美穂



心に残る先生

南河内支部 吉田 沙織

13年前の宇大バレー部に教育学部保健体育専攻の黒後洋先生を見ない日はなかった。当然だと学生の私は思っていた。しかし、それがどれだけ労力を費やし、当たり前ではないかを教員になって知った。

先生はリーグ戦で山梨や東京に行くときは必ず選手と同行していた。わがままな大学生を男女まとめて面倒見ることは容易ではなかったと思う。しかし、部全体と個々の気持ちのバランスを取り持っていた。

部活動が活性化したのは先生の目標が学生の目標でもあったからだ。目標のために努力したことは今でも忘れられない。

今の私はソフトテニス部の顧問をしている。競技は違うがチーム作りは全て共通している。学生時代に体験した黒後先生の指導は自分の目標になっている。



齋藤初枝先生に感謝！

宇都宮支部 渡邊 秀子

初枝先生に初めてお会いしたのは、20年程前、初枝先生が中心になって進めていた、ボランティアサークルのお手伝いをさせていただくようになった時です。行動力があり、笑顔が素敵な初枝先生は、てきぱきと会を進行し、参加していた特別支援学級の教え子たちに慕われていました。ボランティアサークルでは、学習や実習、レクリエーション、見学と、先生の豊かなアイデアで展開され、とても充実したものでした。その頃の私は、志していた特別支援学級の担任になったばかりでしたので、大先輩である初枝先生の考え方やこれまでの経験に触れる貴重な機会でもありました。初枝先生は、短歌や書も堪能で、豊かな感性は、多方面で発揮されていました。できれば、もっともっと学ばせていただきたいです。せめて、初枝先生との出会いで学んだことを、少しでも生かせるようにすることで、感謝の気持ちを表したいと思っています。



久しぶりの再会

上三川支部 鈴木 克伸

教職に就き、気が付けば早30年の歳月が流れました。その間、学校現場を離れ

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出

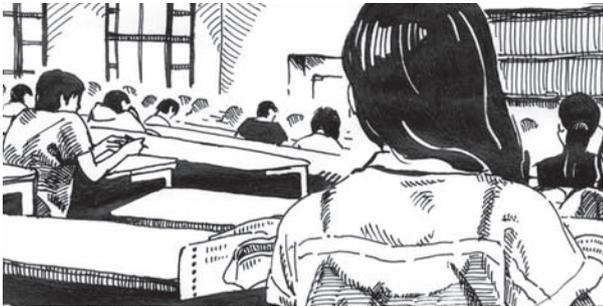


我がよき友よ、良き時代よ 栃木支部 直井正年

昭和50年に美術科(乙)に入学を許された。その年の美術科の新入生は男子3人、女子8人。男子校から進学した私は、浮き浮きしていた。この同窓生たちとは、今でも10年に一度ぐらいのペースで会っている。

英語の授業では、他の科の学生と共に講義を受けていたが、英語の先生からは「美術科にはこのクラスのトップとビリがいますね。」などと叱られていた。トップは美術科の才媛Kさんで、ビリは私である。

3年生になったとき、反帝学評の学生による講義妨害や教授の糾弾が始まった。ノンポリの私たちは、「授業に活動家が来たらどうする?」と本気で心配したものである。この騒ぎも、校門のバリケード封鎖に発展し、機動隊突入により幕を閉じた。この頃のでき事は、今でも懐かしく、ほろ苦い思い出に満ちている。



学びの姿勢/美術教育専攻 向川 麻由



小専音楽とピアノ 宇都宮支部 津野田 誠一

学生の頃、教員になるからには必要とされる資質を少しでも身に付けたいと思い、小専の音楽・図工・体育のすべてを履修した。勿論どの教科も好きではあるが、問題は音楽のピアノ。それまで触れたこともなく、自宅にピアノもない。指導をいただいたI先生には申し訳なかったが、ある日の授業、練習をせず出席した。当然弾ける訳もなく、先生から厳しい叱責を受けた。気持ちと行動が一致せず、自分の情けない面を見た。

さらにその延長線上の話、小学校の教育実習でのこと。1年生担当になり、指導教官から音楽の授業を勧められた。『ぶんぶんぶん』の楽譜を友人に簡単にし

てもらい挑戦した。「ごめん、最初から」を繰り返したら、子どもたちから「歌えない」とブーイング。ピアノはそう簡単には習得できないとつくづく感じた。

退職して3年、子どもたちの元気な声が懐かしい。



若かりしあの頃 藤岡支部 岩本勝典

私が宇都宮大学を卒業してから早29年が過ぎました。先日久しぶりに母校を訪れた際に若き日々のいろいろなことが思い出されました。

私は大変自由きままな学生で、時折授業を休んでは様々な自主的体験活動(?)を行っていました。友人や後輩は私に用があるときは決まって、大学北側の向かいにあったゲームセンターに探しに来て、そして実際よくそこにいました。または東門の向かいにあった「ピンフ」と呼んでいた食堂で170円の天井を食べながらのんびり読書していたりもしました。

そんな私でしたが、先生方や友人に恵まれて、迷惑をおかけしながらもやっと卒業できたのを覚えています。あの頃先生方にいただいた時に厳しく、そして愛情あるご指導が、今の私の教員としての礎になっていると思うと、いくら感謝しても足りない思いがします。



思い返せば 国分寺支部 酒井佳子

卒業して5年が経った。近頃は再び大学へ足を運び、学びを深める機会が増えできた。

学生の頃の思い出と言えば、教員になるために勉強をしたことよりも、気の合う仲間とはしゃいだことが真っ先に浮かぶ。イベントを立ち上げて運営の仕方を話し合ったり、サークル活動の発表会に向けて、泊まり込みで準備をしたり。今振り返れば、もう少し真面目に勉強したほうがよかったのかな…と思うこともある。しかし、4年間共に歩んできた仲間との思い出は、今の自分を支える大切なものである。恩師と巡り会い、素晴らしい仲間と競い合い、幼い頃からの夢を実現できたのは、ひとえに宇都宮大学という学舎のおかげである。

大学生生活を振り返って

大学を卒業した人と
学生が日頃感じていること



仲間がよきライバル

保健体育専攻 田城 美佳

大学を卒業してから一年が経った今、大学生活を振り返ってみると、仲間とともに過ごした四年間はとても充実していたと思います。教育実習で、初めて子どもたちを前にしたとき、きらきら輝く目に感動したり、喜びと一緒に共有できることの楽しさを強く感じたりしました。また、うまくできないことにたくさん悔しさを感じたことで、漠然としていた夢をより明確にすることができました。

現在は、元気あふれる子どもたちと一日一日を全力で過ごしています。時間に追われる日々であり、うまくいかないことの連続ですが、子どもたちの笑顔にパワーをもらい、励まされながら楽しく生活しています。

大学時代、ともに学んだ仲間たちもそれぞれの地でがんばっていることが力になり、自分自身も教員としての力をつけていきたいと思っています。



夢の実現に向けて

社会科教育専攻 藤平 早織

小学校の先生になりたいという夢を持ち、私は宇都宮大学に入学しました。社会科専攻としての4年間でそれまで知らなかった社会科の面白さや奥深さを学ぶことができました。地理、歴史、公民分野など多様な科目を学んだことで、私の世界が広がりました。この幅広い視野を卒業後も持ち続けていきたいと思っています。

教育実習は私の人生の中で最も充実した3週間になりました。子どもたちの笑顔を見るとそれまでの不安や苦勞が吹き飛び、教師という職業の素晴らしさを実感しました。教育実習を通して自分の夢を再確認することができ、その後のモチベーションになりました。



宇大の小道／美術教育専攻 六角 春香

4年間お世話になった先生方や共に支え合った友人には心から感謝しています。宇都宮大学で学んだことや人とのつながりを大切にして、夢に向かって努力していきたいと思っています。



大学での学びを大切に

特別支援教育専攻 矢部 愛佳

私は特別支援教育を学びたいという思いから、宇都宮大学に入学しました。大学での講義やボランティアを通して、個への支援の重要性や通常学級での特別支援教育の必要性など、多くのことを学びました。

私が教員になりたいと強く思ったのは、教育実習がきっかけでした。授業づくりや子どもたちへの言葉かけの難しさを痛感するとともに、子どもたちがもっている大きな力に支えられました。先生方や子どもたちから多くのことを学び、不安だった実習も、実りのあるものにすることができました。実習を通して、子どもたちにとって身近な存在である教員として成長を見守り、喜びを共有していきたいと強く思いました。

この宇都宮大学で学んだこと、育んできた友情を大切に、これからも仲間とともに自分の夢に向かって歩んでいきたいです。



4年間の集大成に向けて

音楽教育専攻 武石 優李

今、私は卒業時自分に自信を持って演奏するために声楽と向き合い毎日練習をしています。4年間の集大成なので、後悔する事がないよう自分の力を出しきりたいと思います。また、唐突ですが、今まで理数系の科目には苦手意識があって避けてきた私が、あるテレビ番組を通して、宇宙について物理の勉強を教科書から理解したいと思うようになりました。知りたいと自分が思うことを勉強することが、学ぶことの真髄なのだ実感しました。

私が教師になったら、子どもの可能性を広げ、またその芽をつぶさないようにすること、やりたいと思えることを楽しんでもらえるように導くこと、本当に知りたい、学びたいと自分から思えるモノを見出し学ぶことこそが勉強なのだ伝えることができるようになります。と思っています。

今に生きる

退職し、第二の人生を
歩んでいる人のエッセイ



黄金の時間

野木支部 星野英子
昭和43年度卒

卒業してから早40数年、今年古希を迎えました。学生時代は、ワンダーフォーゲル部員として仲間たちと山々を歩き回って青春を謳歌。今の私には遠い昔の出来事になりました。

教員になり小学校教育に38年、幸いにも定年まで勤務することができました。定年後の10年間は、黄金の時間と言われているそうですが、趣味にボランティアに健康づくりの日々、あっという間に過ぎ反省しきりです。有効に活用できたと言えるのは、県シルバー大学校南校で2年間学ばせていただいたことでしょうか。学生となって学べることは至福の時でした。部活はコーラスとフラダンス部に所属。他市町の友人との出会いが一番の宝となりました。現在はこの経験をもとに「コーラスマーガレット」を立ち上げ、24名の団員と共に齢とらえず合唱団を目指し励んでいるところです。

ボランティアもいくつか関わり、地域の老人会にも所属しグラウンドゴルフや旅行など楽しんでいます。これからも健康に留意し、社会貢献を心がけ周りの人たちと仲良くしながら、いい時間を過していけるなら、黄金の時間はまだまだ続けられるのではないかと思います。



激動時代の回想

壬生支部 岩田幸治
昭和27年度卒

退職して25年になります。思えば小学校時代支那事変から太平洋戦争へと、高学年の頃は情勢きびしく軍事教練、避難訓練、勤労奉仕があり学校での勉強は一日おきとなりました。昇降口の廊下の壁には陸軍少年兵募集（飛行兵と飛行機、戦車に乗った兵士）のポスターがあり、お国のためにご奉公しなさいと勧められました。私は兵隊さんの手伝いをしようと、壬生飛行場の軍属を志願し通信隊の有線に配属されましたが4ヶ月で終戦。武装解除で残務処理の折り、朝日龍幹中尉よりこれからは世の中が大きく変わって

いくので、学校に行くように励まされ進学を決意しました。

お陰で教職の道一途に勤めて後、町の生涯学習館、中央公民館勤務を経て、現今、地域自治会での故郷の昔を知る会へ、当時の飛行場施設があった位置と戦後入植された65戸の住居跡を図に記入して提供し、遺跡の見学案内をしたり、自治会や育成会の方たちへ、開けた郷土について説明などを行っています。高齢となり体力の減退もありますが、健康に留意し畑仕事や庭木の手入れ等をしながら、平和な時代が続くよう祈念し、感謝の日々を過ごしています。



参加する民主主義

小山支部 山中正
昭和35年度卒

宇大といえば、学芸学部一部甲類の学友達と、大学祭の仮装大会に出て、「地上最低のショー」（貧乏サーカス）で強敵農学部を破って優勝したことが思い出される。ちなみに、私の役は、ぬいぐるみの虎だった。今でも「一甲会」の仲間たちとの会合は続いている。

私は、この春、藍綬褒章受章の栄に浴した。永年の明るい選挙推進活動が認められたようだ。本来、教員であった私が、専門外の褒章に驚いている。振り返って見ると、どうも私は教員退職後、社会奉仕に情熱を傾けてきたようだ。小山市明るい選挙推進協議会活動、自治会長、老人会長、まちづくり活動等、地域の人々との交流を深めてきた。現在でも、明るい選挙推進活動は続け、参議院選の啓発や期日前投票の管理等の奉仕や農業祭・体育祭等の日常啓発をしている。最近では自治会のまちづくり推進活動を、若い人と協力してやっている。民主主義社会では、参加することが大事である。50%以下の投票率では、日本は良くならない。小さいことでもいい。気楽にお茶飲み話のできる街をめざして、今日も活動している。



宇大のサツキ／美術教育専攻 六角 春香



サークル活動を楽しむ

日光支部 **伊藤 静江**
昭和45年度卒

「あえいうえおあ」「かけきくけこか」という、発声練習から始まった音訳奉仕員養成講習会に参加したのが7年前でした。講習会終了後に、ボランティアサークルに加入し活動しています。

活動の中心は、毎月発行される市の広報紙を音訳して、視覚障がいのある利用者にお届けすることです。今までは広報紙の吹き込みはカセットテープでしたが、最近はパソコン利用での編集になってきています。私にとってはハードルが高くなりましたが、脳の活性化に有効と思い、喜んで参加しています。

会の活動には利用者の方との二つの交流会があります。一つは新年会で、ギターの上手な利用者の方の伴奏する合唱が楽しみです。二つ目はバスを利用し外出する交流会です。これは利用者の希望する内容を取り入れています。粘土の感触を楽しみたいと、陶芸を希望したときは、足尾の工房でお皿を焼いてきました。「醤油を入れる所のついた刺身皿を作る。」と張り切るアイデア豊かな利用者の姿に感心させられました。

会の活動は他にもあり、会で知り合った素敵な仲間と一緒に楽しく参加しています。



人のために役立てる

栃木支部 **星野 正隆**
昭和52年度卒

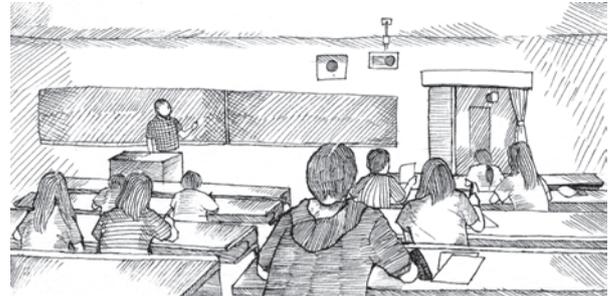
新採から退職までの38年間の日々は、「学校の仕事だ」を錦の御旗として、家庭を顧みることなく、ほぼ自己満足を得るための月月火水木金金だった。

退職を前に、再任用として社会教育指導員（家庭教育担当）への誘いがあった。その時は驚きとともに不安を感じたが、遅きに失した私自身の家庭教育の失敗を、子育て真っ最中の保護者には反面教師として、また、同じく子育て中の娘夫婦には応援者として、何らかの手伝いや勉強ができればと思い引き受けた。講話をするわけではないが、やり甲斐を感じている。

職場に向かう途中、男性平均寿命は80歳、定年退職後の20年をどう生きるかが課題であるとの、ライフプランセミナー説明を思い返していると、第一線を退いた地域の先輩方がボランティアで公園の整備をしている姿を目にした。その時、先輩方一人一人が生きる張り合いをもっているように感じた。

今日も健康で生活していただけることに感謝しながら

ら、何かしら『人のために役立つ』ことを探し、実践することを生きる張り合いとして、残り20年の第二の人生を思いきり楽しんでいきたいと思う。



授業風景／美術教育専攻 小林 瑞歩



前後^{せつ}截断全機之現

宇都宮支部 **竹井 誠**
昭和47年度卒

卒業後44年が経過し、これほどまでに大学との関わりが深くなるとは考えもしなかった。

平成2年の附属中学校勤務（5年）から始まり、保健体育科教科教育法非常勤講師（15年）、保健体育科同窓会長（2年）、本同窓会副会長（中学校長会代表2年）、定年退職後、学年幹事となり、昨年度からは本同窓会副会長（宇都宮支部代表）として現在に至っている。

現職最後の年に腰部脊柱管狭窄症を患い、一時は歩行も困難となったため退職後の仕事の打診も丁重に固辞、名医にすぎる思いでリスク覚悟の手術を敢行した。

その結果、奇跡的に蘇えることができたため、現在は人権擁護委員を始めとしていくつかの社会貢献活動をしつつ、暇があれば野山の花を愛で山頂からの大展望を楽しむなど生き生きと過ごすことができている。

標題は恩師吉沢茂弘先生の教えでもあるが、東日本大震災の津波で東松島の同級生を亡くしその意味がさらに重く響いている。退職後の人生を楽しくより充実させて生きたかったであろう、無念であったらうと。

今後も健康な生ある今を大切にしつつ、微力ながら本会のためにも力を尽くせたらと思う次第である。



叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

深澤 伸久 様 (春の叙勲)	池澤 進 様 (春の叙勲)	
刑部 安夫 様 (高齢者叙勲)	小林 芳夫 様 (高齢者叙勲)	菊地 七郎 様 (高齢者叙勲)
相田 妙三 様 (高齢者叙勲)	橋本 昇 様 (高齢者叙勲)	小池 文司 様 (高齢者叙勲)
横山 昭造 様 (高齢者叙勲)	国井 俊雄 様 (高齢者叙勲)	高下 清 様 (高齢者叙勲)
慶野 英二 様 (高齢者叙勲)	神長 五郎 様 (高齢者叙勲)	吉村 正 様 (高齢者叙勲)

退職者への感謝状贈呈 お世話になりました

篠崎 健一 様 (副会長)	豊田 充 様 (副会長)	人見 久城 様 (副会長)
梁木 誠 様 (副会長)	松尾 昭男 様 (監事)	伊藤由美子 様 (河内北支部長)
柴山 洋 様 (上三川支部長)	坂寄 国仁 様 (南河内支部長)	川島 博 様 (西方支部長)
大塚 武夫 様 (今市支部長)	小倉 茂 様 (日光支部長)	上吉原明夫 様 (足尾支部長)
中野 哲雄 様 (都賀支部長)	市村 秀夫 様 (石橋支部長)	高山 玲子 様 (国分寺支部長)
武井 健智 様 (大平支部長)	浅香 裕子 様 (野木支部長)	石川 優一 様 (藤岡支部長)
小林眞智子 様 (岩舟支部長)	小林 康男 様 (佐野支部長)	

平成28年度定期総会



叙勲受章者への賀詞贈呈



退職者への感謝状贈呈



宇大歌を合唱する会員



和やかな懇親会

講話「宇都宮大学教育学部の最近の動向について－教育学部は何をめざしていくのか－」

講師 宇都宮大学教育学部長 伊東 明彦 様



講話の概要

1 国立大学を取り巻く全国的な動き

●平成16年に国立大学法人に移行し、運営費交付金が1割削減され、教員数も減り、厳しい状況にある。このような厳しい状況の中、大学では改革を求められている。

●宇都宮大学の改革

- ・地域に貢献する取組を重視し、「地域の発展を支える」大学をめざしていく
 - ・専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組をしていく。
- 以上のような改革への取組を実践した結果、宇都宮大学は高い評価を得た。

2 教員養成に係る全国的な動向

●中教審の矢継ぎ早の答申により、文部科学省より改革を要請された。背景にあるものには、少子化による学校環境の大幅な変化・年齢別教員数のアンバランス・子どもの多様化、不登校、不適切行動の増加、子どもの貧困・教員の多忙化等が考えられる。

3 宇都宮大学教育学部の改革

●平成28年度からの宇大における大学入試改革

- ・教員養成に特化するために、平成28年度から総合人間形成課程の募集を停止した。
- ・入試を、「学校教育・特別支援教育系」「教科文系」「教科理系」「教科実技系」の4つに分けた。
- ・1年次生は、今までのような専門分野のクラスでなく、混合クラスになっている。担任は1年次から4年次まで指導に当たる。学生にとっては、コミュニケーション力、協働する力を培うことを狙っており、教員にとっても、混合クラスで指導することに良い効果が出ている。

●宇大の教員の中で、学校での指導経験のある教員を増やす。(15%から25%)

●栃木県における、小学校教員養成の占有率を増やす。(31%から35%)

●教職大学院を設置する。(平成27年に実現した)

4 教育学部の将来

●今後も運営費交付金の削減が予想される。そういう中で、大学の評価を向上させるために、積極的に情報を発信し、「地域活性化の拠点」となる使命を果たすための取組を推進していくことが大切である。また、質の高い、特色ある教育と研究を実践し、魅力ある大学をめざして、更なる改革に取り組んでいきたい。

宇都宮大学教育学部同窓会について

宇都宮大学教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。平成28年度で140年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、教育の中心的な存在として活躍してきました。また、教育以外の分野でも、各方面で、活躍されています。

同窓会では、ねらいを「会員相互の親睦と資質の向上を図り、母校の発展に寄与する」としています。

活動内容は下記の通りです。

同窓会員の親睦

- 総会（県・各支部）・懇親会の開催
- 役員会・理事会等の会議の開催
- 現職会員と終身会員との話し合い・交流
- 会報（年1回）の配布
- 会員の慶弔に関する事業

母校である宇都宮大学への協力

- 宇都宮大学基金への協力
- 新入生歓迎会への協力
- 学生へ記念品の贈呈
- 就職対策セミナー（教員・公務員・企業等）への支援
- 就職支援室への協力
- 災害時における対応（見舞金）
- 施設の新設・改修への協力
- 学生のサークル活動施設の新設（コスモス）（17年度）

- 宇都宮大学まなびの森保育園の新設（18年度）
- 宇都宮大学旧講堂の改修（19～22年度）
- 教育学部音楽棟の改修（25～27年度）

28年度同窓会役員名簿

【役員】

- 客員：石田朋靖・伊東明彦
- 顧問：福島 茂雄・岡田 忠・柴田 毅
- 会長：松本 展壽
- 副会長：増測 茂泰・坂本 三郎・高瀬 崇夫
小林 哲夫・竹井 誠・飯野ハツエ
堀田由美子・川島 芳昭・黒川 悦夫
酒井 功夫
- 監事：徳永 幸子・宇賀神玲子
- 事務局：阿久津嘉子・高尾 亮子

【支部長】

宇都宮	松本 展壽	河内北	栗原 隆史
上三川	鈴木 克伸	南河内	日下田英彦
西方	川嶋真里子	今市	久保田勝憲
藤原	堀川 照子	日光	君島 實
芳賀	生井 孝雄	都賀	井口 桂一
壬生	北見 修	石橋	石田 洋江
国分寺	酒井 佳子	大平	星野美智夫
野木	野口 陽子	藤岡	岩本 勝典
岩舟	松島 俊夫	小山	癸生川 清
栃木	島田 隆広	佐野	白澤 嘉宏
足利	坂本 三郎	塩谷	高瀬 崇夫
那須北	豊田 充	南那須	星 健彦
宇大	川島 芳昭		

ホームカミングデーのお知らせ

- 日時：平成28年11月19日（土） 10時30分開始（10時より受付）13時40分終了
- 場所：教育学部1階（メイン会場）・改築された音楽棟の見学・懇親会
- 参加申し込み：会報に同封してある葉書に記入いただき、投函してください。（切手は不要）

※前回のホームカミングデーに参加いただいた方々に、大変喜んでいただきました。今回参加いただける方々にも、「宇大に帰ってきてよかった、教育学部に帰ってきてよかった」と、思っていただけでも、準備をして、お待ちしております。

***** 同窓会事務局から *****

- 平成29年度の県総会は、平成29年7月2日（日）午前10時から、ホテル丸治で開催の予定です。
- 平成28年度に終身会員になられた方
【宇都宮支部】湯澤光男・駒田郁夫・川俣恵子・富田恒男・古西みゆき・大豆生田将・岩間京子・村上倫子・梁木 誠・青木幹寿・小川恭子・伊藤昌子・大塚律子・関山英二・森 路代
【日光支部】大塚武夫【芳賀支部】大関 馨・石川道子・田上富男・水沼玲子・柿崎 武・苅部圭子・青木良夫・小森利子・濱野裕子・石川雅子・水沼澄夫【佐野支部】荒居包夫・小曾根美栄子・小林康男・篠崎健一・須永知子・福島恵子・藤川 悟
【塩谷支部】南部正人・小島智子・小森英明・飯塚孝子
【那須北支部】稲澤勝世・木村久美子・相馬義郎・嶋村加寿子

編集後記

今回は、「教育実習」を特集しました。学生が大変お世話になっている附属小・中・特別支援学校の先生方や協力校の先生方のお蔭で、「教師への第一歩」を歩むことのできる学生を、同窓会も大いに応援していきたいと思えます。

大変お忙しい中、原稿を執筆いただき皆様、ありがとうございました。

【編集委員】

川村和生・小林純子・高尾亮子・阿久津嘉子

元教育学部長 海野 孝氏（68歳）が、平成28年8月2日にご逝去され、8月8日にご葬儀が行われました。謹んでご冥福をお祈りいたします。